

令和５年度 保健師職能委員会 活動報告

■委員名

委員長：田中友巳

副委員長：吉村信恵

委員：西邑雅代 菅 澄子 福居太佳子 齊藤美和 丸山ありさ 深見 薫 千葉純子
吉田朝美 波田弥生 稲岡繁美

■活動目標

1. 保健師の資質の向上を図るとともに保健師の専門性を追求する。
2. 行政・職域・医療・福祉・介護等様々な分野で働く保健師の現状から課題の集約に努めるとともに、保健師間および看護職間のネットワーク化を図る。

■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和５年４月15日	11名	・令和５年度保健師職能委員会役割分担 ・新任期保健師交流会の企画 ・産業分野保健師交流会の企画
2	令和５年５月13日 (オンライン併用)	10名	・令和５年度活動計画の検討 ・新任期保健師交流会の企画 ・産業分野保健師交流会の企画 ・保健師活動についての情報交換
3	令和５年７月８日	11名	・保健師職能委員の自己紹介 ・保健師職能委員会の日程・活動計画の確認
4	令和５年８月26日	11名	・理事会報告 ・全国保健師職能委員長会の報告 ・新任期保健師交流会の企画 ・産業分野保健師交流会の企画 ・保健師助産師交流会の企画
5	令和５年８月26日	11名	・三職能合同交流会
6	令和５年９月９日	12名	・新任期保健師交流会の企画 ・産業分野保健師交流会の企画 ・保健師助産師交流会打合せ会の報告
7	令和５年10月14日	11名	・産業分野保健師交流会
8	令和５年11月４日	10名	・理事会の報告 ・地区別保健師職能委員長会の報告 ・産業分野保健師交流会の振り返り ・保健師助産師交流会の企画
9	令和５年12月16日	12名	・新任期保健師交流会 ・令和５年度活動報告の検討
10	令和６年１月27日	9名	・自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント

11	令和6年2月3日	10名	・理事会の報告 ・新任期保健師交流会の振り返り ・自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベントの振り返り ・次年度活動計画の検討
12	令和6年2月3日	10名	・保健師助産師交流会

■活動内容	1. 保健師助産師看護師合同職能集会 日 時：令和5年6月15日 9:30～12:00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：令和4年度保健師職能委員会活動報告 令和5年度保健師職能委員会活動計画 基調講演 テーマ：折れない心を作る組織環境～働きやすく・活気ある職場環境～ 講 師：Nバク 氏（看護管理職 YouTuber） 2. 保健師助産師看護師職能合同交流会 日 時：令和5年8月26日 13:30～16:30 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） テーマ：苦情・クレーム対応はチームワークだ！～プライベートにも活かせる コミュニケーションスキルアップで苦情やクレームの7割は防げます～ 講 師：Happy-Mc 代表 高山かずえ 氏 参加者：155名（会場60名 オンライン95名） 3. 産業保健分野交流会 日 時：令和5年10月14日 10:00～12:00 場 所：兵庫県看護協会会館 内 容：産業保健分野と行政等で働く保健師の交流 4. 新任期保健師交流研修会 日 時：令和5年12月16日 10:00～12:00 場 所：兵庫県看護協会会館 テーマ：「今、話し合おう！～入職してから感じること」 ～悩んでいること、困りごと、嬉しかったこと～ 5. 母子のための地域包括ケアシステムの構築に向けた保健師助産師交流会 日 時：令和6年2月3日 13:30～16:30 場 所：兵庫県看護協会会館 テーマ：もっと知りたい！Face to Face でつながる産後ケア ～お互いの働きを話そう～ 参加者：25名（保健師・助産師・看護師）
■活動の評価	1. 保健師の資質の向上を図ると共に保健師の専門性を追求する。 保健師の活動指針の改定に向けて、各委員の所属における保健師活動の現状と課題について情報共有を行った。コロナ禍で実習ができなかったため経験不足の新人、多様な経歴を持つ保健師に対する人材育成、分散配置による分野毎の育成とジョブロー

テション、小規模自治体の人材育成の強化、新興感染症を含む健康危機管理体制の強化、人員不足による地区診断・地区担当制が困難であるなど共通するものであった。

上記現状を踏まえ、保健師活動指針に追記する内容として3点を報告した。①地区担当制を推進するために、課題を明確にして保健師活動ができる人材を確保すること②災害や健康危機管理対策として統括保健師が組織横断的にマネジメントできるよう統括保健師の役割を明記すること③OJTができる環境と中堅保健師の教育体制の整備、効果的なジョブローテーションについて記載すること

今後、保健師の活動指針及び保健師の人材育成ツール（習熟段階）の進捗状況を注視するとともに生涯を通じた保健師としての専門性について検討していきたい。

2. 行政・職域・医療・福祉・介護等様々な分野で働く保健師の現状から課題の集約に努めるとともに、保健師間および看護職間のネットワーク化を図る。

新任期保健師交流会（入職後5年以内）の実施にあたり、対象となる新任期保健師に交流会の実施方法、時間帯、希望する内容、看護協会入会の有無、入会しない理由について調査した。既に日程が土曜日午前中に決定していたが、調査結果からは平日昼間の開催を望む声が多かった。職能委員会として活動している事業であり、今後も平日昼間の開催は困難であること、交流会の参加は職務ではなく保健師活動の自己研鑽の場であることを周知して行く必要がある。殆どが職場からの情報での交流会参加であったが、少人数のグループで自由に話し合い、情報共有できたことから、終了後のアンケートでは「大変満足」との回答であった。参加者からは、研修会と組み合わせての開催、同じ業務をしている保健師の集い、他市町の事業の取組み、先輩保健師の経験談が聞きたい、継続した繋がりがほしいなどの声が聞かれた。今後の交流会の参考にしたい。

産業保健分野で働く保健師（看護師）は、一人あるいは少人数の職場が多いため、相談や情報交換ができるよう平成28年度から交流会を実施している。

今年度は、産業保健分野と行政等で働く保健師が、お互いの業務を理解することにより、保健師の資質向上と専門性について考え、保健師間の連携ができる機会とした。参加者アンケートから、地域毎に分れてグループディスカッションをすることで、名刺交換や色々な情報交換ができてよかったと満足度が高い結果となった。また、他のグループの参加者とも交流を深めたいという声があったことから、交流会の持ち方について検討していきたい。

保健師助産師看護師・支部合同交流会においては、三職能委員長が看護職として共通するテーマについて協議し、テーマを苦情・クレーム対応とした。3年半におよぶ新型コロナウイルス感染症に対応する中で患者、家族を含む住民や関係者からの相談や苦情対応に遭遇することが多く、看護職として対応を振り返るとともに自身のセルフケアも必要であることから、医療接遇研修に実績を持つ高山先生を招き今回の交流会研修を企画した。想定を上回る参加者があったことから、テーマへの関心が高かったことが伺える。

「苦情とクレームの違い」「医療者としての基本的態度」「自分を大切にし、苦情・クレームを一人で抱え込まず職場全体のチームで対応する」「具体的事例における対応スキル」について現場で起こる具体例をまじえながらの講義内容であり、今後の業務につながるものであった。

助産師職能委員と合同で実施した母子のための地域包括ケアシステムの構築に向けた保健師助産師交流会は、地域の母子保健を直接担当している保健師の参加が限られていたため、各職能委員もグループワークのメンバーとして参加した。産科や訪問看護ステーションで働く看護師の参加もあり、活発な意見交換を行うことができた。

	医療現場では市町によってサービスや様式が異なることへの混乱、ベットコントロールが困難であること、地域からは需要と供給のバランスがとれておらずタイムリー利用に繋がらない、里帰りの産婦や医療的ケア児が利用できないなど制度上の課題が明確化した。また、育児休暇を活用しきれないことによる育児負担や、予約を急遽キャンセルするなど保護者の未熟性などの課題も見えてきた。
■今後の課題	・保健師の人材育成ツール、保健師活動指針の改正に伴う保健師の専門性を追求する。 ・先輩保健師の経験談や今年度の参加者の継続参加など、魅力ある新任期保健師交流会を企画する。 ・産業保健分野で働く保健師（看護師）と行政等で働く保健師の連携を図る。 ・三職能合同で実施する職能集会、交流会を通して、各職能の活動を理解し看護職間の連携を深める。 ・助産師職能と連携し、母子のための安全・安心な地域包括ケアシステムを推進する。